



新しい生活様式の中で

会長 川下 勝利



年頭にあたり謹んで御祝詞を申し上げます。

会員園の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと思います。

昨年は世界中が「新型コロナウイルス感染症」に翻弄された年であったといっても過言ではありません。日本でも年明けすぐに感染者の報道がされました。治療方法や症状が明らかになっていないこともあり、年度末に予定していた1年間のまとめの活動や卒園式等、保育所の大切な行事に大きな影響を与えることとなりました。

4月の新年度になると、国の緊急事態宣言を受けて教育機関が一斉に休校となる中で、保育所も自治体の判断により登園自粛から休園へと大きく舵を切ることになりました。多くの職場がテレワークを主体とする働き方に代わり、在宅での勤務が常態となる中でも緊急保育は行われ、医療・介護職員と同様に感染リスクが増大しても働き続ける保育士の姿が大きく取り上げられることになりました。一方、自粛中で登園する子どもがいなくても国の運営費は減額されずに全額支払われるにも関わらず、保育士やパート職員の給与を減らす施設の実態が明らかとなり、「休園ビジネス」等の言葉と共に社会問題化されることとなりました。

当協会の活動も中止または縮小せざるを得ない状況で、会議もWeb上での開催が多くなりました。令和元年度には900名を超える求職者に来場いただいた「TOKYO保育園フェア」も、令和2年度は秋葉原会場、立川会場ともに断腸の思いで開催中止を決定しました。毎年恒例の養成校との懇談会も行えなかったため、就職を希望する学生への情報提供の場を確保する方策として、協会求人サイトのバージョンアップを雇用対策部が中心となって検討しております。また、協会としても今後の取り組みを見据え、500人以上の多人数の参加できる研修会のWeb開催を念頭に準備を進めているところです。

このような中でも、形を変えることで実施できた事業もありました。第3回TOKYO保育フォトコンテストは、会員園97ヵ園から374作品もの応募をいただき、Web上での審査という形で各賞の選考をすることができました。受賞作品は10月23日～24日にTOKYO保育フォト展会場「アーツ千代田 3331」で、検温、消毒、ソーシャルディスタンスの感染予防対策のもと展示・公開させていただきました。表彰式は協会事務局会議室にて、密にならないよう受賞園に時間差で来場してもらい、1園ずつ行いました。また、外出を控えている方や遠方にお住まいの方のために3Dフォト展を制作しました。表彰式の様子と併せて協会ホームページにアップしておりますのでぜひご覧ください。

令和3年度の予算要望活動については、9月15日に担当部署へ要望書を提出、11月9日の小池都知事とのヒアリングの際にも要望書を提出いたしました。要望の内容はすでにお伝えしている通り、保育サービス推進費の補助事業である保育拠点活動等コロナ禍の影響で実施できない事業や、保育士等住居借り上げ支援事業等を重点事項としています。

さて、皆様の保育所では、どのような形で感染予防対策をしていますか。この原稿を書いている11月中旬では、第3波の襲来が懸念されています。感染動向を予見することはできませんが、少しずつ緩和されてきた保育活動が、また厳しく制限されることだけは回避できるよう願うばかりです。手洗い、消毒等「新しい生活様式」を導入しつつ、幼い子どもたちへの関わりの中で、保育者のマスク姿等についてふと疑問に思う場面が多くあるのも事実です。今は感染予防が何よりも優先される場面ですが、大きな声援を受けての運動会や子ども同士の濃密な関わりの中で育つ他者への「思いやりの心」等、人としての成長の中で先送りできないものも多くあります。私たち保育者が、コロナ禍における子どもたちの成長への影響を適切に判断し行動に移せるような取り組みが早急にできるよう働きかけてまいります。

令和3年を迎えるにあたり、日本の未来を支えるすべての子どもたちが最善の環境の中で、様々な体験を通し成長していける社会の構築を目指して1165ヵ園の会員園の皆様と活動することをお誓い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。